

「出題の意図」

| | |
|--------------------|--|
| 選抜区分 | 2023 年度 （選抜区分：一般後期） 文学部人間関係学科 （科目名：集団討論） |
| 出題の意図 （評価のポイント） | <p>1. 出題の背景・求める能力</p> <p>後期日程の試験科目である集団討論は、与えられた討論テーマに基づいた数人の受験生による討論形式の入試である。テーマを設定した討論場面において、自分自身の見解をテーマに沿って論理的・独創的に表現できる能力、情報提供や意見調整など円滑なコミュニケーションを進める能力、集団の中で適切なかたちでリーダーシップを発揮していける能力などが求められる。</p> <p>2. 解説</p> <p>今年度の集団討論は、1 試験室につき受験生 6～5 名を 1 グループとして 3 つの試験室で同時に進行し、それを 2 回繰り返す形で進めた。</p> <p>同時に行う 3 試験室は共通する討論テーマとし、各回は別のテーマを使用した。以下に各回のテーマごとに解説する。</p> <p>【集団討論 1 回目】</p> <p>解説：例示された日常的な仕事をもたらす学業や友人関係等への影響を踏まえながら、ヤングケアラーへのあるべき支援を討論してもらった。</p> <p>高校までの学びでは、生活問題認識に気づきにくいためか、当初は問題の本質に接近できなかったが、それぞれが活発な議論をかわし、それぞれの発言を活かしながら、認識を深める討論がなされたグループもあった。</p> <p>受験生全員が、ヤングケアラーが身近にいない（気づいていない）立場であった討論グループでは、ヤングケアラーそのものの議論にはならず、また論点のズレが生じていた。</p> <p>ヤングケアラーの知識や印象は各自で違うところがあったが、子どもの自由を守るための金銭的あるいは精神的支援が議論された。ただ、具体的にイメージしにくいところもあり時に議論が止まることがあった。</p> <p>【集団討論 2 回目】</p> <p>解説：統計をはじめて過去最高となった 2021 年度の不登校児童生徒数について急増の原因を考えるとともに、学校はどのような施策をとるべきか討論してもらった。</p> <p>テーマとしては受験生自らの学校体験や、周囲への関心の持ち様によ</p> |

っては討論しやすいのではないかと考えていたが、なぜ不登校になってしまうのかは議論の中心にならなかった。そのため急激な増化の原因についてはほとんど意見が出てこなかった。とるべき施策についても SNS の利用などについては言及されるものの、それ以上の深い言及はなかった。

活発に意見や質問を投げかける受験生がいたが、その他の学生からの応答は少なく、議論が深まらないグループもあった。ただ、その中でも、学校や義務教育の必要性から、それぞれの受験生の考え方や対等が述べられていた。

➤ **受験生への情報提供**

普段の生活や社会の動きの中から課題や問題点をみつけ、それを言葉にする練習や、集めた情報を整理したりする練習が集団討論に役立つと思います。また、それを友達と話し合ってみるのも良いと思います。自分の意見を持つ、他者とやりとりすることで、多様な視点を理解し獲得することや、問題の捉え方について深めていくことが求められます。